

急性胆嚢炎の治療のため診察を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター 外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診察情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診察情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診察情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診察上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	高リスク患者における急性胆嚢炎に対する早期腹腔鏡下胆嚢摘出術の安全性
【研究実施期間】	承認日～2026年12月31日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 外科 研究責任者 井口 友宏
【対象となる方】	西暦2022年7月1日から2023年7月5日に外科にて急性胆嚢炎の診察のため入院し、手術を受けた方78名
【研究の意義、目的、方法】	急性胆嚢炎に対する治療として、できるだけ早期に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行うことが推奨されています。しかしながら、リスクを有する患者さんでは保存的治療を先行し、状態が改善した後に手術を行うことが提案されています。 実際の臨床の現場では個々の症例で慎重な手術適応の判断の下、リスクを有する患者さんに対しても早期に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行うことがあります。しかしながら、手術適応判断には一定のコンセンサスは得られておらず、その安全性については明らかではありません。 リスクを有する胆嚢炎患者に対して早期に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行うことが安全であるかどうかを検討します。 この研究を行うことで患者さんに不利益や健康被害が生じることはありません。
【利用する試料・情報の種類】	急性胆嚢炎の診察に関する臨床データ（年齢、性別、身長、体重、BMI、病名、病歴、血液検査、手術時間、出血量、術後の転帰）

【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 外科 井口 友宏 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）